

2023 濰坊陳介祺金石文化週間が開幕

2023年10月22日、「2023 濰坊陳介祺金石文化週間」の開会式が中国山東省濰坊市濰城区十笏園文化街区で盛大に開催されました。

今回の「2023 濰坊陳介祺金石文化週間」では、“陳介祺生誕 210 周年記念”を祝し、10月21日から27日までの間、五つの“展示”と三つの“学術企画”、“寄贈式典”、“京劇コンサート”、そして“第8回十笏園国際金石文化用品博覧会”のイベントが開催されました。篆刻作品は世界17の国と地域から寄せられ、多くの観覧者で賑わいました。とりわけ日本篆刻家協会の幹部による60点余りの作品、及び会員による120点余りの作品が同時に陳列され、多くの専門家、学者らをはじめ、参観者からの好評を得ました。

この文化週間中、陳介祺第七世の直系子孫であられる陳進氏は、毛公鼎銘文拓片1点、陳介祺の父・陳官俊の手になる奏上文2点を寄贈下さいました。また、日本篆刻家協会21名による篆刻作品も寄贈されました。そして「陳介祺の学術思想・金石文字研究学術シンポジウム」では、27人の陳介祺研究者、古文字研究の学者等が参加し、応募論文の中から「陳介祺学術賞」の論文が選出されました。五つのテーマのもと開催された展覧では、二つの陳介祺に関する特別展覧が同時開催され、初めての展示となる貴重な陳介祺に関する文物コレクション380点余りが展示されました。「万印楼精英收藏プログラム」には、17カ国と地域の篆刻精品印鑑印屏2600点余り寄せられました。

開幕式では、現代版「万印楼」、そして「金石文化公園」の落成が発表されました。現代版「万印楼」は、十笏園文化街区の文昌閣と一体化し、これまでに収集された篆刻作品は10086点、印屏は7400点余りに達し、今後常設展示されるとのこと。「金石文化公園」は、有名な明代に造営された自怡園に造られ、先秦古璽、秦、漢、魏、晋、隋、唐、宋、元の代表的な印章と、明清、そして近代中・日・韓の名家による印章123方を石に刻み、園内を散策しながら遊覧できるよう設置されています。

濰坊は中国金石文化の発端の地、重要拠点の一つです。当地の出身である清代の陳介祺は、金石に関する收藏とその研究においての当時の最高水準を示し、のちに「前無古人、後無来者」（前に古人無し、後にも来る者無し）と称えられ、現在でもその不動の地位を保っています。2014年以来、濰坊市は「陳介祺」、「万印楼」といった歴史的資源を生かし、陳介祺による金石文化を積極的に国内外に宣揚し、この10年、休むことなくこうした大型金石文化イベントを開催してきました。現在ではこうした実績を通して、「金石の都」と称えられるようになりました。貴日本篆刻家協会はこの10年の間、続けて濰坊における金石文化交流にご参加下さり、国際金石文化交流活動をともに推進して下さい、心より感謝申し上げます。